IDEC YOKOHAMA

ニュースレター（年４回発行）

【発行】公益財団法人　横浜企業経営支援財団
〒231-0011　横浜市中区太田町２-23 横浜メディア・ビジネスセンター７F
TEL. 045-225-3700　FAX. 045-225-3737　http://www.idec.or.jp/

2014.4 No.9

今年も元気な起業家が勢揃い 横浜ビジネスグランプリ2014決定！

有望な起業家を発掘することを目的とした「横浜ビジネスグランプリ 2014」の最終選考会を２月 22 日、ランドマークホールで開催しました。横浜ビジネスグランプリは 2003 年から開催している国内最大級のビジネスプランコンテストです。11 年目を迎えた今回は、応募対象を「横浜市内で新たな事業を始める事業者」に絞り、横浜での創業・起業にこだわったコンテストへの転換を図りました。

今回の応募総数は 127 件にのぼり、その分野は、農業、健康、福祉、環境、IT など極めて広範な分野にわたり、意欲的なビジネスプランが多数寄せられました。22 日は最終選考に勝ち残った、ベンチャー部門７人、学生部門３組の起業家が審査員と約 300 人の来場者の前でそれぞれのプランを発表しました。

最優秀賞を獲得した手島大輔さんのプランは、高齢者や障がい者が誤って飲み込んでも安全・安心な歯磨きなどオーラルケア製品の製造や販売をつうじて、障がい者の仕事創出を図る、という事業です。天然抗菌成分を材料にした製品の革新性とその製造や販売を障がい者の雇用創出に結びつけるというユニークな視点が高い評価を受けました。手島さんのプランは来場者が投票で選ぶオーディエンス賞も受賞しました。

学生部門の優秀賞は慶應義塾大学大学院生の興野悠太郎さんが受賞しました。興野さんのプランは、シャボン玉に香りを封じこめ、さらに画像との融合によって、イベント会場などでこれまでにない体験ができる装置の開発です。イベントにあたらしい価値を付け加える可能性があるという点が評価されました。

女性起業家賞を受賞した前原洋子さんの提案は、墨の代わりに水で毛筆のように習字ができる特殊な紙をいかした、幼児向けのかきかた教室の展開です。墨の汚れを気にすることなく幼児期から美しく正しい文字を教えるという目的に加え、習い事での人気の高さや幼稚園との連携などマーケティングの手堅さが、評価されました。

創業準備中のビジネスプランに贈られるアントレプレナー賞を受賞した、東京工科大学の安藤将大さんは、「読みたいときに読みたい本が読めない」という視覚障がい者の悩みを、専用アプリケーションの開発とそのユーザーの協力を得て改善するというものです。読書のバリアフリー化という課題にたいする解決策として期待されます。

収益をあげながら社会課題を解決するプランに贈られるソーシャルビジネス賞は、行列が絶えないラーメン店の主人、和智幸之輔さんが受賞しました。横浜市の観光

▲グランプリを受賞した手島さん

戦略と連動してイスラム教徒に和食としてラーメンでオモテナシを提供するという提案です。ラーメンを契機として他の料理にもハラール※対応が広がり、横浜を食の都市として世界にアピールしていくことが期待されます。

今回のビジネスプランの審査には、家電量販店ノジマ社長の野島廣司様をはじめ、７名の審査委員の方々に、大変お世話をかけました。これまでは最終審査だけで各賞を決めていましたが、今回は事前段階から審査をお願いし、本番以外にも６時間を超える活発な議論をいただきました。また、多くの地元企業や金融機関の皆さまから様々な協賛をいただき、地域で盛り上げるイベントとして起業家にたいする支援の輪の広がりを感じることができました。この場を借りてお礼申しあげます。

横浜ビジネスグランプリはひとつのステップです。IDEC はこれを契機に、皆さまのご協力をいただきながら、横浜で起業・創業する方々を支援していきます。

※ハラール：イスラム法上で合法的な事

◆ ベンチャー部門 最優秀賞 及び オーディエンス賞	手島 大輔	革新的な口腔ケア製品で全国の障がい者の仕事創出
◆ 学生部門 優秀賞	興野悠太郎	バブルを用いたフレグランスマッピング装置 FRAGWRAP（フレグラップ）
◆ 女性起業家賞	前原 洋子	「水書道」を活用し、毛筆と硬筆を組み合わせた新メソッドのかきかた教室の展開
◆ ソーシャルビジネス賞	和智幸之輔	「HALAL（ハラール）ラーメン・つけ麺戦略」プラス５%の新規客「食」を通して相互理解
◆ アントレプレナー賞	安藤 将大	視覚障がい者読書支援サービス

詳細は、IDEC経営支援課　問 045-225-3714までお問い合わせください。

ワンストップ経営相談窓口をご利用ください

創業や企業の経営課題の解決に向けて、ＩＤＥＣ職員・専門家がお手伝いをします！

TEL.（045）225-3711（財団本部）　TEL.（045）788-9571（金沢拠点）

www.idec.or.jp/keiei/

■ Pick Up

中小企業の海外進出支援制度を新設します。

少子高齢化や大手企業の海外進出による国内取引の縮小など構造的な要因に加え、東日本大震災やタイ洪水等を契機とした大手企業のサプライチェーン見直しなど新たな課題への対応がもとめられています。

海外ビジネス相談では、小規模企業などこれまで海外展開を検討していなかった企業からの相談が増加しています。また、進出先は引き続きアジアが主流ですが、高品質な製品や技術が要求される、アメリカ等先進国での展開を検討する事例もみられるなど変化が生まれています。

ところで、企業が実際に海外進出について的確な経営判断を行うためには、海外進出が成長や収益につながるかを客観的に検討する調査が重要です。しかし、中小企業には人的・時間的な制約があり、十分な事前調査ができないことが課題となっていました。

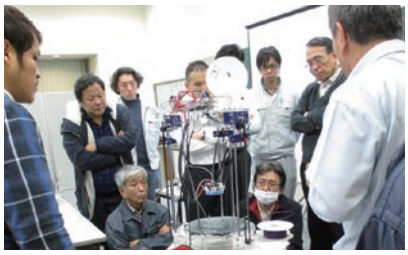
IDEC は、26 年度から市内企業の海外進出を支援する助成制度を新設します。具体的には、コンサルタント等への調査委託費、通訳費、翻訳費などの調査経費について、90 万円を限度に最大 2/3 を助成します。

また、これらの調査を円滑に進められるよう IDEC の横浜ビジネスエキスパート等、専門家が事業計画策定から調査結果の検証等を支援します。

制度の詳細や募集要項については、国際ビジネス支援部にお問い合わせください。

詳細は、IDEC国際ビジネス支援部　問 045-225-3730 までお問い合わせください。

3Dプリンタ製作ワークショップ開催



▲ 作成風景

話題の 3D プリンタですが、予備知識なしに購入しても、使いこなせないだけでなく、不具合が生じた場合に修理ができないなど、様々な課題があります。

そこで、経験豊かな講師の指導のもと、3D プリンタを実際に製作することによって、その仕組みや制御方法を理解し、事業に活用できる基本的な力を養うことを目的とした「3D プリンタ実践ゼミ」を１月から３月まで６回シリーズで開催しました。

市内中小企業をはじめ 15 社が参加し、最終回には参加者がそれぞれ設計したボルトを製作しました。講師はこれまでに 3D プリンタを何台も自作し、また 3D プリンタで製作した樹脂モデルを実際の設計業務にも活用している 3DCAD 設計の専門家、SHC 設計の増田恒夫氏にお願いしました。

参加者からはこのゼミによって、３ D プリンタの仕組みや特徴、可能性と限界、自社での活用法を考える手掛かりを得ることができたと好評でした。

IDEC では、3D プリンタの活用と普及を支援するため、様々な企画を実施します。

詳細は、メールマガジンなどでご案内します。ご期待ください。

詳細は、IDEC 技術支援課　問 045-225-3733 までお問い合わせください。

新・ものづくり補助金のご相談はIDECへ

消費増税に備え、中小企業支援策の目玉として国が打ち出した、「新・ものづくり補助金（25 年度補正、中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業）」の募集が２月 17 日から始まりました。この事業は、中小企業が取り組む、試作品・新サービス開発、設備投資等による新しいチャレンジを支援するもので、予算額は 1400 億円です。

今年度からは、製造業に加え、商業やサービス分野にも対象が拡大され、生産プロセスの改善や新たなサービス、販売方法の導入に取り組む企業などが支援対象となります。

１社あたりの補助金の限度額は、１千万円（補助率 2/3）です。ただし、「環境・エネルギー」「健康・医療」「航空・宇宙」については「成長分野」として、このいずれかに取り組む場合は、限度額は１千５百万円と手厚くなっています。ただし従業員数が 20 人（商業、サービス業では５人）未満の企業では、限度額は７百万円となっています。

今回の公募でも、申請書類の提出に際しては、認定支援機関による事業計画の実効性についての確認が必要です。IDEC は昨年７月に認定支援機関となっており、本事業の確認業務を受けつけています。

募集期間中は専用の窓口を設け、市内の事業所からの申請に関するご相談に応じています。１次公募の最終締切りは５月 14 日（水）となっていますので、申請を検討中の皆さまは、早めに財団にお越しください。

詳細は、IDEC ホームページ　http://www.idec.or.jp/keiei/zyoseikin.php　経営支援課　問 045-225-3714

メルマガ登録者募集中！

事業などの情報をタイムリーにお知らせするため、各種メールマガジンを配信しています。どなたでも登録できます。IDECホームページ　http://www.idec.or.jp/「財団からの情報」の「財団発行メールマガジン」をご覧ください。

■ Pick Up

台湾インターンシップ生が社内を活性化

▲ 関東学院大学学生との交流会風景

今年も１月 23 日から３週間、台湾からの学生 24 名を市内企業 22 社がインターンとして受け入れました。研修生は、それぞれ大学で専門分野を履修後、台湾がグローバル人材育成の切り札として設立した国際企業人材育成センターで２年間にわたって日本語、英語、マーケティングなどを学んできました。就職難の台湾でも大手企業などから多数の採用希望が寄せられるなど、優秀な学生がそろっていることが特徴です。

今年新たに研修生を受け入れたミツハシ（金沢区）は台湾で 40 店を展開する楓康スーパーと提携し、３月から岩手県産米の販売を開始します。これまでは国内中心でしたが、農産物もグローバル対応を求められているため、社内の活性化を目的に受け入れました。

金井順取締役は、短期間で習得したとは思えない研修生の日本語のレベルに「大変な努力を重ねた彼らとコミュニケーションをとることで、社員も刺激をうけた」と効果を実感しています。身近に接した社員も「はじめは心配だったが、日本語だけでなく日本の慣習などもよく知っていた」と驚きを隠しません。関心をお持ちの企業はご連絡ください。

詳細は、IDEC国際ビジネス支援部　問 045-225-3730 までお問い合わせください。

■ 新着情報

テクニカルショウヨコハマ2014に出展しました。

２月５日から７日まで、「テクニカルショウヨコハマ 2014」がパシフィコ横浜で開催され、IDEC は「よこはま産学・企業間連携コーナー」を出展しました。毎年好評を得ている産学連携ワークショップでは、出展企業や大学の研究者が特設会場で介護福祉や環境関連の最新技術などについて 17 回、セミナーを開催し、立見が出るなど盛況のうちに終了しました。

今年の目玉は話題の 3D プリンタです。IDEC 3D 造形技術研究会ブースでは、２社が 3D プリンタを実演し、動作中の機械をのぞき込んだり、できたこのモデルを手にとったりする来場者でにぎわいました。3D プリンタを活用したビジネス展開については、一点もののオーダーメイドに強い 3D プリンタの特性をいかして介護福祉関連企業と障害者用の補助具の製作についてマッチングが行なわれるなど、見本市の場での商談が進められました。

詳細はIDEC 技術支援課　問 045-225-3733

ご活用ください!特許等の外国特許出願費用を助成します

経済のグローバル化に伴い、「海外への製品輸出、ライセンスビジネスを展開したい」「現地での製造・販売にあたって自社ブランドを保護したい」など、中小企業にとっても海外での知的財産戦略や模倣被害対策が重要になっています。しかし、外国の特許や商標権等の取得には多額の費用が必要となり、中小企業にとっては大きな負担となっています。

IDEC は国の制度を活用して外国出願費用の一部を助成しています。25 年度は、知的財産を活用した海外展開への関心の高まりから、前年度の３倍を超える 19 社がこの制度を利用しました。補助金の上限額は特許が 150 万円、実用新案・商標・意匠が 60 万円、冒認対策商標※が 30 万円で、補助率はいずれも助成対象経費の 1/2 以内です。26 年度は５月中旬受付開始予定です。関心のある方はお問い合わせください。

（※）冒認対策商標：第三者による抜け駆け出願の対策を目的とした商標出願

詳細はIDEC 技術支援課　問 045-225-3733

■ Column「IDEC上海事務所レポート」

工業と農業の発展を目指す江蘇省金壇市

上海事務所副所長　川北 彰子

長江デルタの北の一辺を形成する上海―蘇州―南京ルートは中国経済の大動脈であり、日系製造業も多数進出しています。このルート上でこのところにわかに注目をあつめているのが、上海から220キロ、南京から105キロ、杭州市から215キロに位置する江蘇省金壇市です。

これまでは繊維産業が主体でしたが、最近は新エネルギー、新素材、精密機械産業などに力を入れています。金壇市の魅力はなんといってもコストが安いことです。レンタル工場の賃料は蘇州の約５割、人件費も７割程度です。また、金壇市は中小製造業の誘致にも熱心に取り組んでおり、日本や欧米企業向けの国際工業団地には、小規模なレンタル工場も完成しました。

一方、もともと「魚米の故郷」と呼ばれるほど農業や水産業が盛んな金壇市は、ブランド米やブランド茶の産地としても有名です。日本をはじめ海外企業、大学からの技術協力によって、農水産業の高度化と環境配慮型の農業の実現をめざしています。製造業だけでなく農業法人等の進出にも積極的です。ご興味のある方は上海事務所（yokohama@idec-sh.com）にお問い合わせください。

▲ 国際工業団地のレンタル工場

各種イベントを開催しています　/ 2014.4〜5 /

イベント名 / 会場	時期
はじめての海外展開セミナーⅣ / 横浜シンポジア これから海外展開に取り組もうとする中小企業を対象に、アジアのビジネス環境と日本企業の海外進出動向や市内中小企業の進出事例を紹介するセミナーを開催します。	４月14日（月） 13:30〜16:30
起業チャレンジセミナー / 大会議室 創業を志す人、起業に迷っている皆さまの疑問にお答えします。	毎月１回
日本公庫・創業セミナー / 大会議室 創業を開始する予定の方、または創業後間もない方を対象に日本公庫の創業支援メニュー、創業事例等を中心にお話しします。	毎月１回
経営セミナー 企業経営に役立つトピックや、時流に沿ったテーマのセミナーを開催します。	５月中旬予定 （近日確定）
産学交流サロン・研究会 / 大会議室 市内ものづくり企業が新分野進出、新製品開発を支援する目的として、大学研究シリーズを紹介します。	５月中旬予定

上記イベントはほんの一部です。詳しくはホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。　IDEC横浜　検索

４月から上海事務所所長が交代します。

赴任あいさつ　　上海事務所所長　斎藤　信明

横浜は上海と最も古い交流を結んでおり、民間・経済レベルでの交流は、一部困難な情勢にあるものの、依然日中双方にとり重要です。この交流の橋は、往来する人物が多いほど、より強固になります。この橋を往来する市内企業の皆様と中国側のパートナーとをつなぐお手伝いを精一杯させていただく所存です。

上海事務所は、皆様に使っていただいてこそ意味があります。中国関連のお問い合わせ、上海にお越しの際は、よろず相談所として、お気軽にご利用、お立ち寄りください。

Information

IDEC施設入居者募集

- 横浜新技術創造館（鶴見区：研究室・事務室）
- 横浜金沢ハイテクセンター・テクノコア（金沢区：研究室・事務室）
- 横浜情報文化センター（中区：事務室）
- 横浜市金沢産業振興センター（金沢区：事務室）

詳細はIDECホームページ http://www.idec.or.jp/「施設のご案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご覧ください。
問 施設経営部　045-225-3710

ワンストップ経営相談のご案内 －お気軽にご利用ください－

創業や経営、技術、国際ビジネスなど様々な課題について、IDEC職員や専門家が無料（一部のものを除く）でお答えします。

窓口相談（直接、お越しください）
IDEC本部や金沢産業振興センターで企業の皆さまの様々な経営課題についてのご相談にお答えします。

専門家相談（事前申込制・申込方法は以下参照）
弁護士、社会保険労務士など分野別に曜日を決めてお答えします。法律（火曜日）、労務（金曜日）、IT活用（木曜日）

技術相談（事前申込制・申込方法は以下参照）
大手企業OBなどの専門家が中小企業の皆さまを訪問し、技術課題の解決をお手伝いします。

オンライン相談
IDECまで来る時間がとれない方向けに、ネットでの相談も受け付けています。

国際ビジネス相談（先着・事前申込制）
経験豊かな専門家が中国、タイ、ベトナムなどの対象地域や貿易取引など実務についてテーマごとの相談会を毎月開催します。
スケジュールとお申し込みは、IDECホームページ「イベントのお知らせ」をご覧ください。

経営コンサルティング
経営革新や新規事業展開などを目指す中小企業に専門家が継続的コンサルティングを実施します。

申込方法　IDECホームページ http://www.idec.or.jp/ の「ニーズ別事業紹介」のメニューからご希望の事業を選び、各事業のページから相談事業を選んで申し込んでください。
なお、はじめて利用する方は、新規ユーザー登録が必要です（一部のものを除く）。

編集後記

今回は、「横浜ビジネスグランプリ」や「テクニカルショウヨコハマ」など１月以降に開催したイベントや「台湾インターンシップ」、「３Ｄプリンタワークショップ」などおもな事業の最近の状況について記事をまとめました。

また、新年度を迎え、上海事務所所長のご紹介を始め、新たに開始する中小企業の海外進出支援や新・ものづくり補助金、外国特許出願助成金などこれからご利用いただけるメニューについても概要をお知らせしています。

今後も紙面の充実に努めてまいります。本紙についてご意見をおまちしています。